

テーマ 「おもちゃの整理整頓について」

大好きなおもちゃで遊ぶことは子どもにとって至福の時間です。親の悩みはその後のお片付け。楽しい時間が終わってしまうという理由から嫌がるお子さんもいるかと思います。散らかっていても子どもが簡単に片づけられる状態にしておくためのコツをご紹介します。

① おもちゃの量を見直す

片付けの度に毎回親が手伝わなくてはいけない量は、その子が扱うことができる量を超えているので見直しましょう。そしておもちゃの量を見直す時は子どもと一緒に選別するようにします。これは物を見極める力を育む初めの一歩でもあります。親が勝手に選別してしまうと大切な機会を奪ってしまうことになりかねません。初めはうまくいかなくても繰り返すことでスムーズにできるようになりますので定期的に行ってみてください。

《見直す時の聞き方のポイント》

・「最初のお気に入りは何？」などポジティブに伝えることで子どもの反応が変わってきます。おもちゃの見直しをしていてすぐに手放すことができないものは、普段は見えない場所に2重（控え）として置いておきます。季節に応じて定期的におもちゃの入れ替えをしていくことで遊びに新鮮さが生まれたり魅力を再発見することができます。

② おもちゃの入れ物は軽く、痛くない素材を選ぶ

おもちゃの入れ物が重いと子どもが自力で持ちあげられないので、片付けに対してのハードルが高くなってしまいがちです。また、裸足で過ごすことの多い家の中では、足に落としてケガや事故につながることもあります。持ち手がついているかなど、子どもが運びやすい入れ物を選びましょう。

③ おもちゃの入れ物と棚に隙間をつくる

棚とおもちゃの入れ物の上に、10cm以上の隙間があると子ども自身が上に抱えることができ移動しやすくなります。棚の高さを調節したり、入れ物を買うときに高さを選ぶことで調節してみてください。

⑤ 子どものやる気を引き出す言葉かけ

片付けやすい環境を整えたら、次は声掛けです。漠然と「片付けて」といっても遊びをやめたくない子どもは動かないことが多いです。

「掃除機をかけるから散らかっているとできないの。おもちゃをラベルの通りボックスに入れてくれる？」
「床に何も落ちていないかおもちゃのパトロールをお願いします」など行動を具体的に伝えたり、責任感をくすぐるような声をかけることで子どもに響いて行動に移すことができるかもしれませんね。

④ 分類はざっくり、逃げ場を作る

片付けは「これは〇〇だからこのボックスにしまう」と直感的に分類できないと片付けの手が止まってしまうことがあります。子どもの理解力や性格に合わせ、なるべくざっくりとした分類にしましょう。多種多様なおもちゃは分類に困ることもあります。そういうときは「いろいろ」という分類を用意するのもいいですね。子どもたちが分かりやすいようにラベルを貼って表示するのもいいかもですね。



片付けは今やっていることに区切りをつけ次の行動に切り替える練習になりますので少しずつ取り組んでみてください。

